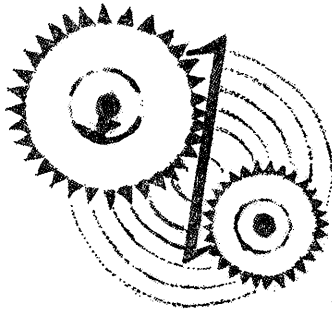


講演

# お母さま方は太陽だ

小林 つや江



本稿はお茶の水女子大学附属幼稚園で行なわれた講演をもとに加筆修正されたものです。

皆さん、おはようございます。昨晚は皆さんにお目にかかれるのがうれしくてようにねむれませんでした。〈笑い〉

皆様のお顔が目にかんできました。どんな顔かな、円い顔、四角な顔、三角形のお顔、いろいろ形はちがっていても、心はみんなやさしいお母様方、みんなお子さまに情熱をもたれ、毎日毎日を力強く生きていらっしゃるお母様方だと思います。

わたくしもこの幼稚園に曾孫がお世話様になっておりますので、今日は母親の一人としてよろこんでお話に伺ったわけでありますからどうぞよろしく願います。

まず最初に申し上げたいことは「お母様は太陽だ」ということであります。もしこの世に太陽がなかったら世の中はどうなることでしょうか。ごいしょう。

昔々のお話ですが天照大神がおられて楽

しい楽しい生活をしていました。天照大神の弟神スサノオノミコトが悪いことばかりしていたので大神様は大変におこりになり、天の岩戸へおかくれになったというお話は皆様よくごぞんじのことと思います。その時世の中はどうなったでしょう。世の中はくらやみになり悪い神様ははびこってしまったました。皆々心配していた時、アメノウズメノミコトがおどりが上手でしたので酒だるの上でたのしい、おもしろいおどりを踊ったそうです。皆面白くといって手をたたいていました。天照大神様、何事であろうかと、そーっと天の岩戸をあけて、外を御らんになられようとした時、タヂカラオノミコトが、ぐっと天の岩戸をおひらきになったというお話です。何回きいても楽しいお話ですね。一寸余談になりましたがお母様のいらっしゃらないお家は丁度そのようだと思います。

- ・ 太陽は光を与えてくれます。
- ・ 太陽は熱を与えてくれます。そして
- ・ 太陽によって生物は育ちます。

この太陽こそ、家の中のお母様です。かわいいお子さん方に光と熱と愛情をそいでやって頂きたいと思ひます。

それには先ずお母様方の健康であります。健康を管理するお医者様であってほしいと思ひます。まず御自身の健康から、考えていきましょう。それには毎日つぎの

- 1 快眠
- 2 快食
- 3 快便

の三つを考えていきましょう。

朝の気持よいめざめで、おいしく食事をします。そしてきもちのよいお通じをする。毎日御自分をはじめ一族の「三快」に気をつけて頂くことが大事なことだと思ひます。それからつぎに「三つの木」について考えてみたいと思ひます。それはまず

- 1 げんき(木)をだし
- 2 やるき(木)になり、そして
- 3 こんき(木)よくつづけること

であります。この三つの木が鼎のようになっていけば楽しい家庭をつくることができると思います。

先日新聞に「百歳長寿者の秘けつ調べ」がでていましたので御参考までにお話ししましょう。

一〇〇歳まで生きる秘訣は

- ・物ごとくにこだわらない
- ・くよくよしないように心がける
- ・腹八分に（暴飲暴食をつつしむ）
- ・睡眠を十分にとる。

とありました。一つ一つなるほどなーと思いました。「長生きも芸のうち」とよくいわれています。病気をしないできもちよく、楽しくくらしたいものですネ。

わたしは毎日正しい発声をと心がけています。正しい姿勢になると、正しい呼吸ができます。（自然に腹式呼吸ができます。）

そして楽しい歌をうたってみましょう。春のようなさわやかさが生れてきます。

一家の健康はまず母親から、お母様が健康であれば家中が健康になれると思います。食生活はバランスのある「こんだてをすること。黒柳徹子さんのかいた「窓ぎわのトットちゃん」の中に小林宗作校長先生がおべんとうの時、子どもたちのおかずがかわらないように必ず海のもの（こんど）山のもの（梅ぼし）をおもちになって、海のもの山のものはいっていない子どものおべんとうの中に入れてあげたということが書いてありました。わたしはそれを見た時、この校長先生はすばらしい教育者だと思いました。毎日毎日の食生活をよくお考えになられたとしみじみ敬服しています。

### 指をつかってあそぶ

「声をだすこと」姿勢を正しくして大きな声をだすと腹式呼吸を自然にすることになります。うたをうたうと楽しくなりますからくよくよしなくなります。そして、それにもう一つ大切なことは指先を使うことですね。毎日の生活でお母様方は朝から指先をつかっていらっしやい

ますね。(しらすしらすのうちね)

朝の掃除。お食事の用意。おせんたくなど、おさいほう、あみものなど……

指先をつかうと、頭がよくなるそうです。頭がよくなりますと、ぼけないそうです。指先で……さわる。ふれる。にぎることができません。不幸にして目のみえない方は、指先をつかっています。指さきは第二の頭脳といわれる理由がおわかり頂けたと思います。

ですから毎日ピアノやオルガンまた楽器をつかう方、そして声楽家のように声をだしておられる方々は自然に健康体になっていることになりましたネ。

ここで指あそびの「わらべうた」についてお話ししましょう。

・「どのおせんべいがやけたかな」

・「ずいずいずっころぼし」

など無心にうたいながら、あそんでいる「ゆびあそび」はどなたも御存じのことと思います。

また両手のひらを合わせてあそぶ

「赤ちゃん赤ちゃんなぜなくの」

「子どもと 子どもとけんかして」

などは こゆびと こゆびを合わせながら

「赤ちゃん赤ちゃんなぜなくの(小指)

姉さんミルクをのんじやった(薬指)

兄さんおもちゃをとっちゃった(中指)

母さんおでかけもどらない(人さし指)

そこで

父さんブンブン(おやゆび)

とうたいます。

上手にゆびさきを合わせてみましょう。もう一つ「子

どもと子どもとけんかして」は赤ちゃんと同じようにしてあそびます。

御参考までに、

「子どもと 子どもとけんかして (小指)

葉やさんがとめたけど (薬指)

なかなかなかなかおらない (中指)

人たちゃわらう (人指しゆび)

親たちやおこる（ブンブンブン）（親ゆび）

というあそびもあります。

また手合せあそびの中には二人むきあってあそぶ。

・「お寺の和尚さん」

「セッセッセーのヨイヨイヨイ」と気持を合わせ、はじめ自分で拍手「オ」「テ」手を開いて向いあった友達の手をたたく、これを

「おてらの和尚さんが

かぼちゃのたねをまきました」

までつづけてする。

「芽が出て」お互いに手の平を合せて芽をつくる。

「ふくらんで」ゆびさきを合せたままたなごころをふくらます。

「花がさいて」——指さきをひらいて花のさくようすをする。

「ジャンケンポン」で勝負をきめる。

これで終りにしてもよいし、なお次のようなあそびに発展すると一そう楽しくなる。

勝った子どもは負けた子どもの手の平に（例右手をと）

「一本ばしコチヨコチヨ」をして

「たたいて」「つねくって」（つまんで）

「階段のぼって コチヨコチヨ」と

わきの下まで「尺とり虫」のように上って行ってコチヨコチヨをする。子どもたちは大喜びで何回も何回もくりかえしてあそぶ。

何回もくり返して遊んでいるうちにゆび先はよく動くようになり、あそびも上手になっていきます。なお「わらべうた」は「うたとあそび」とが一語になるものです。離しては「わらべうた」ではなくなります。

### お茶の水幼稚園からえたもの

さてお話はとびまして、わたくしごとで恐縮ですが、東京高等師範学校の附属小学校（現筑波大附小）へつとめるようになりましたのが昭和四年五月からでした。今まで師範学校そして女子校とつとめて参りました

のが、急に小学校へまいりましたので指導のむつかしさを感じました。一生懸命に指導すればするほど子どもたちから離れていきます。師範学校から女学校と指導にはすこしも困難を感じませんでしたのに。そこで私の姉のように相談相手になって貰える戸倉ハル先生に話しました。そこで小学校と幼稚園との関連は一かんしていかなければならぬと思うのでお茶の水の幼稚園へ紹介して貰いました。

はじめて伺ったのは六月のはじめでしたと思います。園長はあの有名な倉橋先生でした。倉橋先生は大変お喜びになって「どうぞよくごらんになって下さい」とおっしゃって園の中を参観させて頂き、園児の遊んでいるお庭へつれて行って頂きました。

十人位の園児が「ことしのぼたんはよいぼたん……」と園児は男の子も女の子も手をつないで遊んでいました。わたしははじめてきたりみたりしたあそびでしたのでとても新鮮な気持ちになってみました。何回もくり返してあそんでいましたので、しばらくしてから戸倉

先生とかわってきました。それから一ヶ月ほどたった七月のはじめに、また参観にいきました。するとまた、「今年のぼたんはよいぼたん……」をうたいながらあそんでいました。それから二学期の中頃いきましたがやはり「今年のぼたん……」をして遊んでいました。わたしはこんなにも「わらべうた」が長つづきをしたのしい遊びに発展するということをしたのはこの時でした。そこで小学校の音楽（その当時は唱歌）の時間に取り入れて指導したところ、児童の眼ががやくようになり、楽しい指導ができるようになりました。

例 三年生の教材の中に「茶つみ」というのがあります。これを手あそびにしてみました。二人むきあって

「なつも ちかづく 八十八や トントン」

と手合せをするので、誰にでもすぐ出来ました。まりつきのうたの時は

「一番はじめは一の宮」とか

「あんたがたどこさ」などいろいろなうたあそびを入れてゆたかにしました。児童は大よろこびで活気にみ

ちた表情で音楽室へくるようになりました。

昔フレーベルが「歌うことに動作をつけておこなわせることは、子どもの活動性をますことである」ということばをしみじみ味わえるようになりました。

わたしのわらべうたの研究はこの時からはじまったのであります。ほんとうにおかげさまだと感謝しています。

### 音痴について

よくみなさまから「子どもが音痴で困ります。パパが音痴なものですから」と、何もごんじのないパパに責任をもっていく場合がよくあります。(笑)迷惑をこうむるのはお父さま方です。これは家庭のかんきょうに左右されることが多いと思います。よい音楽を常にきくことが出来るかんきょうであれば自然になおっていくものだと思います。

お母さまと一しょにうたうと、お子さまの心はなごんできます。「一諸に歌う」ということはなんとすてきな

ことでしょう。またよい音楽のレコードを毎日きかせることも大切ですね。楽器がなかったらば、「手をたたく」これはすばらしい楽器だと思えます。または手近にある机でも、お茶わん、コップなどなんでもよいのです。またおもちゃばこにある(よい音のでるもの)ものでもたのしい器楽合奏になると思えます。

昔(昭和のはじめ頃)小学校の先生が師範学校時代に「ピアノ(オルガン)をひきなさいとおっしゃったので、ピアノをみんなで移動させた」といっておられました。オルガンもピアノも少ない時代で練習する楽器は少しし仕方なかったことだと思えますが、今から考えると夢のようなお話であります。また少しのけがでも大きくほうたいで巻いて「先生手がいたくてひけませんでした」といって先生におことわりをしたこともあるなど、なんとかして楽器をひかないことを考えたといつて笑っていらっしやいました。

みなさん音楽では苦労したようですネ。

さて音痴というのは楽器の音からはずれるのです。上

手に歌えないとすぐ音痴といってしまう。

それでは幼児の音域はどのように発達するかについてお話ししましょう。

世界中の赤ちゃんの産声（オギャー）という生のよるこびの音は「一点イ音」だといわれています。この音は大変大切な音です。その音で一年位はないたり、笑ったりアブブとお話ししたりしています。それから音はだんだん下にひろがっていきます。つぎに音符で表わしてみましょう。

「NHKの時報の音です」注意しておきぎになって下さい。ピアノ・オルガン・バイオリンなど、このイ音（A音）で調律します。木琴もハーモニカも皆同じです。

音をきいた時すぐ「イ音」だないとわかるととても楽しいですよ。

音域は下の方へと発達しますから、年令によって歌曲をえらんでみましょう。そして楽しくあそんで下さい。

御参考までにつきに歌曲名をあげてみましょう。

例

0歳（1度）

あわわ あわわ

いない いない ばあ

1歳〜2歳（3度）

ちようち ちようち

かいぐり かいぐり

おつむてん てん

なべなべ そこぬけ

ほたるこい

かえるがなから

ゆうやけこやけ

たこさんたこさん

じゃんけん ぼん

おせんべいがやけた

なべなべそっこぬけ

3歳〜5歳（4度）

あがりめ さがりめ

たてよ一二

幼児の音域の発達

0歳 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳 6歳

あ い え お け こ ぬ け





ここにこしながらかえっていきました。翌日も早くから私のそばへきましたので、昨日のように三四回一しょにうたっているうちに声も出るようになりここにこして教室へかえっていきました。A子さんはどんなにうれしかったでしょう。これで自信がつかまりました。それからはお友達と一しょに大きな声でうたうようになりました。私はほんとうによかったと今でもあの時の感激が思い出されます。

子どもはほめてそだてることが一番だとしみじみ思っています。



〔講演者紹介〕 明治三十四年長野県生れ。東京音楽学校（現・東京芸術大学）卒。東京府立第六高等女学校（現・三田高校）に在職中、戸倉ハル先生に出会う。昭和四年から昭和三十七年まで東京教育大学附属小学校の音楽の先生となる。後、戸倉先生と共に日本女子体育大学教授となられた。体育の戸倉、音楽の小林のコンビで、日本における子どもの音楽リズム教育を躍進させた。お茶の水幼稚園のみどり会夏の研修会では、長年にわたって指導にあたられた。

